

【学校教育目標】 お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成



# みながっ子

わかる できる かわる たのしい学校

【校訓】  
かしこく  
やさしく  
たくましく  
やりぬく

## 前

前期後半が始まり2週間あまり、「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通り、酷暑の日々もようやく終わりかけ、学校のあちこちで、ツクツクホウシの声がきかれるようになりました。

前期後半初日の朝のあいさつは、「あいさつは 相手の目を見て自分からしよう」の学校全体の目標からはかけはなれた姿でしたが、普段の学校生活に戻るにつれ、また、3年生を中心にしたあいさつ運動の成果もあって、次第に元気なあいさつ声の音がきかれるようになりました。

夏休み期間中には、私たち教職員も校内や校外で様々な研修に取り組みました。教科指導、生徒指導、特別支援教育、不祥事防止…。市内全域の教職員が集まる各教科や職務についての研究会や自主的な研修にも取り組みました。

学校にはさまざまな立場の教職員がいますが、主には「お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成」をめざした研修です。

日々の授業が、子供たちにとって「わかる できる かわる たのしい」授業になるにはどうしたらよいか、子供たちに次のような姿が見られる授業を今後も目指していきます。



- 1 子供たちが、(国語、社会、算数などの)「見方・考え方」を働かせながら、深く考えている。
- 2 子供たちが、見通しをもって授業に参加している。
- 3 子供たちが、課題に対して考えを伝え、対話や協力して活動することで考えを深めている  
(対話的な学び、協働的な学び)
- 4 教師からいわれなくても、また、教師による指導によって、学び方を工夫しながら学習している。  
(「いわずともできる」自律した学び)
- 5 自分が選んだ学び方のよさや課題をふりかえっている。(自己調整力)



【SDGs】  
人生ゲームでSDGsキャリア教育について学んでいます



【保育園就業体験】  
松田教諭による、三永太陽保育園での年長園児さんとの就業体験



【三永太陽保育園 おひさま広場】  
三永太陽保育園では地域の子育て支援にも取り組まれています



【1年生の対話】  
夏休みの後は、楽しかったことを伝えたくてたまりません。これぞ対話的な学び



【平和学習バス】  
東広島市内の全小中学校代表児童生徒が集まった「平和学習バス」三永小学校代表として6年生 中本偉大くんが参加しました。広島平和記念公園で、記念碑めぐり、被爆体験者による講話を聴き、資料館見学等を行いました。全校朝会で、平和学習バスに参加した思い、平和についての自分の考えを全校児童に伝えました。

9月の保健目標

★けがの予防をしよう★

9月の生活目標

☆あいさつは相手の目を見て自分からしよう☆

## 法務省「社会を明るくする運動」作文コンテストより

日常生活で犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする「社会を明るくする運動」への理解を深めてもらうために、作文コンテストが行われました。6年生40名が参加しました。世の中の幸せのためにはどうすればよいのかを子供なりに考えた作品が集まりました。そのうち3名の作品を一部紹介します。

### 最初の一步は勇気から

～人が生きていく時、それぞれの時の悩みがある。私の幼稚園時代の記憶の一つにも今となっては小さな悩みであったかもしれないが、当時はとても悩んでいたことがあった。幼稚園から帰宅すると、母にそのことを語っていた記憶がある。

～犯罪や非行を未然に防ぐためには、身近な地域社会から、相談できる環境づくりに取り組んでいくのがよいのではないだろうか。

～これから先、自分が学生、社会人になっていろいろな悩みがその時その時起きると思うが、勇気を出して話をし、解決に向けていきたいと思う。私も人の気持ちを考えて発言をし、人に相談される人になれるよう生きていきたいとあらためて思った。

### 犯罪やいじめの無い世の中に

～勉強しているときも自分が分からないところがあると、クラスの人には教えてくれます。逆に、クラスの人から分からなくて困っていたとき、私がちょうど得意なところだったので教えることができました。すると、その子が「ありがとう」と感謝してくれて、わたしは人の役に立てたことと、その子の新しい一面を見つけられたことで自分もうれしい気持ちになったことを今でも思い出します。

～時々私は、「人ってうれしい気持ちはみんな同じなんだ。」と思うことがあります。ちょっとしたことで助け合い、理解しあうことや知らない一面を見つけようとする気持ちを大切にしていきたいです。それが犯罪やいじめのない世の中。

### 人への思いやりと感謝

～自分が軽い気持ちで言ってしまったことが相手にはとても傷ついてしまうことがある。相手のことを思い、思いやりをもってせつしていくことが大切だと私は考える。

～私の家にあるカレンダーには一日一ページに言葉が書いてある。その中に「『ありがとう』の気持ちを込めて」という言葉がある。ならいごとができること、勉強ができることなど、あたりまえなことだ。そういったことに感謝していくことが、まわりの人への思いやりとなっていくことだと思う。何をすることも感謝をわすれずにすることが大切なんだと思った。

## コミュニティスクール推進員より

三永小学校は、令和4年度から「コミュニティ・スクール」に取り組んでいます。「コミュニティ・スクール」とは、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、協働して子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める「学校運営協議会」のある学校の仕組みです。

三永小学校はこれまでに、いもの栽培、川探検、虫探しなど、多くの学校支援ボランティアの方々に支えられました。

今回は先日行われました5年生の稲刈りの様子をお伝えします。



仲伏さんから手順を学んでいます



学校運営協議会委員の方々の授業参観

コミュニティスクール推進員 藤木 千日